

岩村の歴史

ヒストリア

第1回

かつて「岩村城」が南国市福船にあったことは多くの地域住民の知るところである。が岩村城はいつごろ存在したのか、また城主は誰なのかについては全くベールに包まれたままなので、そこで岩村城の謎について迫ってみた。

平成八年から九年にかけて、基盤整備(岩村地区担い手育成



かつて岩村城があった土地。周囲が一段高くなっている。右手の木立は福田八幡宮、中世のころは、八幡宮を武神として敷地内に招聘した。

基盤整備事業)に伴う発掘調査

により、場所は福船集会所の東

側で城域の範囲は東西六〇m、

南北一〇〇mと推定され、北側

と東側には幅五m、深さ二mの

逆台形の堀が張り巡らされ、か

つて水をためて敵の侵入に備え

ていたことが証明されている。

当時の史実を証明する文書が

我部氏らがあり、南朝方(官方)

には、大高坂氏、河間氏、佐川

氏、大平氏、和食氏、有井氏が

おり、岩村城主、深淵城主もこ

の中にいた。

「佐伯文書」によると、一三

三六年一月七日、北朝方は浦戸

城を攻撃、三月十六日には深淵

城(現野市町)を攻撃して焼き

岩村城の謎に迫る

室町時代(南北朝の内乱)に炎の中へ

あまり残ってなくて、唯一現存

する「佐伯文書」に頼るほかな

い。佐伯文書とは豪族・津野氏

の有力武将で堅田(佐伯)小三

郎経貞が残した文書集である。

足利尊氏が室町幕府を開いたの

が一三三五年(建武二年)、そ

の翌年から南北朝の内乱が始まっ

た。足利尊氏は一族の細川氏を

四国平定のため派遣した。この

土佐の北朝(武家方)側の豪族

に、津野氏、三宮氏、堅田氏、

曾我氏、大黒氏・吉田氏、長宗

払い、三月十八日、一宮で戦っ

た後、二十一日には大高坂城

(現高知市)を攻撃、四月十一

日、八幡山東坂本(現岡豊地区)

で激戦、四月二十六日、岩村城

を焼き払ったと記述されている。

土佐において南北朝の戦いはこ

の後も三年あまり続いている。

深淵城の戦いは物部川の「西

川原」で戦ったと記載されてお

り、当時の自然堤防跡から考え

ると蔵福寺島南から立田・本村

東側が戦場であったと想定され

る。また岩村城の戦いもその周

囲が戦場であったであろう。ま

た深淵城の戦いには、田村庄の

名主、入交氏(十七代新兵衛元)

が官方として参戦したことが、

「入交家系図」に書かれている。

おそらく岩村城の戦いにも味方

として参戦したことであろう。

「基盤整備事業」の記念誌の中

でも、「地域全体が中世の古戦

場であったため、田の中に点在

する無縁墓・石くろの数は千数

百基にも及んだ」と記載されて

おり、裏付けている。

当時は現南国市が政治・文化

の中心地であり、岩村城・深淵

城・入交氏の田村庄・八幡山東

坂本が南朝方(官方)の中心地

であったことになる。

岩村城主は不明ではあるが、

建築は鎌倉時代末期以前である

のは間違いないであろう。

(寄稿者・福船 和田真一)

参考文献

南国市史

南国市史資料(岩村村史)

南国の歴史を歩く

図解高知県の歴史